

道徳のかけ橋

令和2年6月29日発行
第 2 3 号
福島県教育庁
義務教育課

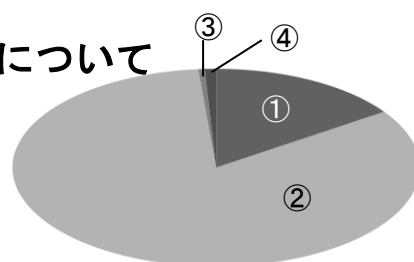
令和元年度道徳教育実施状況調査の結果をお知らせします。

学校再開後、道徳科においても、学びの保障に向けて、日々努力いただいておりますことに改めて感謝いたします。

今号では、令和元年度道徳教育実施状況調査 (<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a> に全項目の結果一覧掲載) から特徴的な項目を抜粋して紹介します。新型コロナウイルス感染症に係る差別や偏見によるいじめが大きな問題になっている中、道徳教育がますます重要になっています。このような状況下でも各地区での様々な取組が行われておりますので、中学校区や近隣の学校との情報共有をすることで、より一層充実した取組を推進するようお願いいたします。

1 道徳教育全体計画の「別葉」の活用の有無について

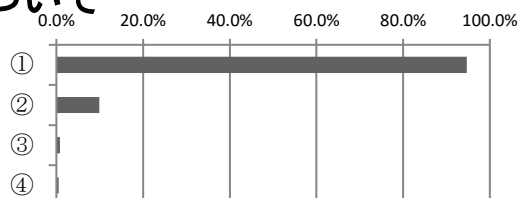
① 成果や課題などを記入して活用している。	■	15.5%
② 確認するなどして活用している。	■	83.5%
③ 活用していない。	■	0.5%
④ その他	■	0.5%



「別葉」を活用している学校が、昨年度より増えています。今年度は小学校の教科書が改訂され「別葉」を見直した学校が多いと思います。作成することがゴールではなく、活用し次年度の教育課程に生かすことが大切です。他教科の学習と関連させたり、指導時期を検討したりすることで、教育効果を最大限に発揮するカリキュラムマネジメントの実現につながります。「道徳の礎」に事例を掲載していますので、各学校の教育課程に合わせて、ご活用ください。

2 ふくしま道徳教育資料集の活用場面について

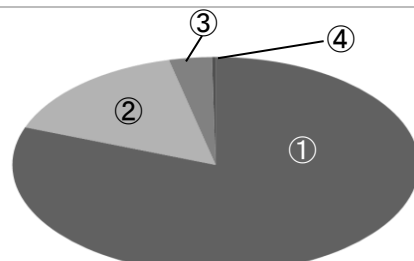
① 道徳科の授業に活用した。	94.7%
② 道徳科以外の学校教育活動で活用した。	9.9%
③ 家庭学習等で活用した。	0.8%
④ その他(読書タイム、校長が行う全校道徳の授業等)	0.5%



東日本大震災が発生した頃、幼かった子どもたちに対して、郷土愛や感謝等を考えさせた活用例が増えています。授業だけでなく、東日本大震災を振り返る時間や全校集会、その他にも、読み聞かせとして日常の指導の中で活用することも可能です。ぜひ、様々な場面でご活用ください。

3 心に響く多様な指導方法への取組について

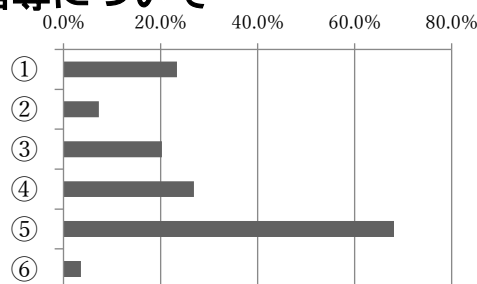
① 教員は理解し、工夫して実践している	■	80.6%
② 教員はおおむね理解しているが実践できていない	■	15.6%
③ 教員の理解や取り組みは不十分である	■	3.4%
④ その他(年度内に研修会を実施予定)	■	0.3%



教科化の趣旨の一つは「授業の質的改善、量的確保」です。各地域の推進校の取組や研修会の実施により、先生方が授業改善に向けて工夫して実践してきた成果が表れています。研修会に参加した校長先生が、自ら研修を生かして授業を行ったり、初任研の授業を参観し、よさを吸収するベテランの先生がいたり、先生方の研修意欲の高さが伺えます。「授業改善、指導と評価の一体化を踏まえた校内研修を行った」学校は、中学校で92.6%、小学校で76.7%でした。担任以外の教員の道徳科授業への参加の実施率も高くなっています。継続的な取組をお願いします。

4 家庭や地域社会との連携による道徳の指導について

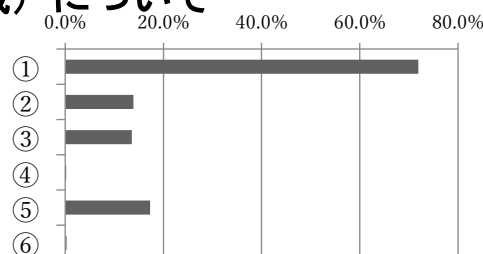
① 保護者が授業に参加した	23.4%
② 地域の人々が授業に参加した	7.3%
③ 保護者や地域の人々以外のゲストティーチャー	20.3%
④ ①～③について実施する予定はない	26.9%
⑤ ホームページや学級、学年便りで発信した	68.1%
⑥ その他(保護者の手紙やインタビューを活用、授業参観ガイドを作成、PTAや学級懇談会で活用。道徳ノートを持ち帰り、保護者が児童にメッセージを記入等)	3.6%



学校、地域の実態に合わせた家庭、地域社会と連携への取組が進んでいます。「ホームページや学級、学年便りで発信した」割合が68.1%と昨年度より10ポイント以上増加しました。学校で目指す道徳教育が家庭、地域でも共有できれば、教育効果は高まります。新型コロナウイルス感染症に係る差別や偏見が問題になっている今だからこそ、学校で行った指導について家庭へ発信し、家庭でも地域でも同じ目線で子どもを育てていくことが大切です。

5 道徳科の評価への取組（通知票への記載）について

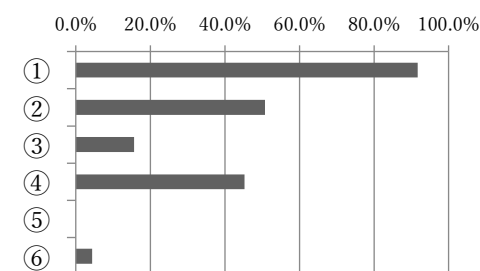
① 通知票に、通年1回記載する	71.9%
② 通知票に、通年2回記載する	13.9%
③ 通知票に、通年3回記載する	13.6%
④ 通知票には記載していない	0.2%
⑤ 保護者面談、個別面談等で伝える	17.3%
⑥ その他(ワークシートの活用 等)	0.3%



道徳科の評価については、悩んでいる先生方も多いのではないのでしょうか。先生方が見取った子どもの姿を教員間で共有する等、子どもを見取る目を広げていきましょう。また、通知票の見直しが行われている学校も多いことと思います。この機会だからこそ、各学校で、児童生徒を受け止め、認め、励ます評価をどの時期にどう実施し、児童生徒や保護者に還元していくかを吟味していく必要があります。学校全体での取組をお願いいたします。

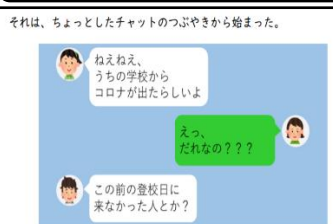
6 道徳科の評価のための資料を累積する方法について

① ワークシートを活用して累積している	91.7%
② ノートを活用して累積している	50.8%
③ 座席表を活用して累積している	15.6%
④ 教科書の書き込み欄を使用して累積している	45.3%
⑤ 資料の累積を行っていない	0.0%
⑥ その他(学校統一の記録用紙活用。振り返りシート、自己評価表、感想シート等を作成し活用。ノートの累積。アンケートによる把握。発言内容を名簿に記載。板書写真累積。eポートフォリオ機能の活用等)	4.4%



ワークシートが最も多く活用されていますが、⑥その他の数値が昨年度より多くなっています。各学校の創意工夫で評価資料が累積されていることが分かります。一方で「学校全体として取り組んでいるか」という点では、課題もあるようです。校内で、評価の視点や方法、累積資料について共通認識し、子どもの姿を見取ることができる授業づくりを学校全体で取り組みましょう。

～ご活用ください～



「ふくしまならでは」の道徳教育の実現に向けて必要な理論や昨年度道徳教育推進校の実践等を集録し、ふくしまの先生方の悩みに寄り添う一冊になっています。各学校に2冊配本しました。先生方の問題意識に合わせて活用してください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/378581.pdf>

新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止に向けた道徳科教材を作成しました。動画教材も掲載しています。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/gimukyoiiku57.html>

